

授 業 科 目 名	保育内容指導法 (環境)	教 員 名	田川 一希	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	FOI205	配当年次	2年前期		こども音楽療育士	選択
単 位 数	2単位			小幼コース	選択必修	
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)					
一 般 目 標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。					
到 達 目 標	<p>(1)領域「環境」のねらい及び内容について</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域「環境」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)領域「環境」の指導方法と保育の構想について</p> <p>①幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていくための指導法および基本的な知識を身につける。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容、内容の取扱いについての理解を深めるとともに、他領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係を知る。子どもをとりまく環境として、物的環境、自然環境、植物、動物 (昆虫を含む)、土・砂、水の世界についての基本的な知識や技能を習得し、それらを活用した保育の方法について実践的に学ぶ。子どもの発達を踏まえて、保育における環境 (人的環境、物的環境、社会環境など) を構成する技術を取得する。</p> <p>また、実際の保育実践の検討を行うことで、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を修得する。具体的な保育方法の考案を行い、それらを子どもの発達や領域「環境」の特性から、批判的に検討し、保育を改善する視点を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして、保育活動・遊びの体験・考案、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを取り入れる。</p> <p>本授業は、直接体験の充実と基礎理論の獲得の両立を目的として「反転授業」の形式で行う。毎回、指定された予習動画を視聴し基本的な知識を身に着けた上で授業に臨むことが求められる。</p>					

<p>ディプロマ・ポリシーとの関係</p>	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>
<p>授 業 計 画</p>	<p>第1回：保育における環境 保育内容の領域「環境」のねらいと内容 幼児教育・保育と小学校教育の質的な違いについて、教育課程の構成、教育目標の設定、教育の方法の観点から学ぶ。幼児の遊びの様子を捉えた動画を見て、幼児をとりまく環境の要素についてグループで議論する。幼稚園教育要領・保育所保育指針を参照し、保育内容の領域「環境」のねらいと内容を概観する。(目標(1)②④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第2回：保育内容の領域「環境」の目標 ストロー笛、糸電話づくり [講義] 保育内容の領域「環境」の目標にある「好奇心」と「探究心」の意味と、それらを育てる保育方法について考察する。 [実践] 好奇心と探究心を育てる保育実践として科学あそびを取り上げ、ストロー笛と糸電話を体験する。これらの遊びを発展させる支援方法について、グループで議論する。(目標(1)②④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第3回：土・砂との出会い だるまごづくり [講義] 土・砂を用いた保育の指導方法を学ぶ。土・砂の物理的・化学的・生物学的特徴についての知識を取得する。学んだ土・砂の特徴を基盤として、砂場での子どもの遊びのエピソードを分析する。 [実践] 光るだるまごづくりを体験し、遊びを発展させる方法をグループで考える。(目標(1)②③④、目標(2)①③④⑤)</p> <p>第4回：植物との出会い 植物の観察と、植物を用いたあそび [講義] 遊びの素材としての植物の特徴を、共通性と多様性の観点から学ぶ。子ども向けの絵本(「すみれとあり」「おおばこ」など)を取り上げ、幼児が植物について理解を深めることのできる児童文化財を知る。 [実践] 大学構内でフィールドワークを行う。野草を用いたあそびとフィールドビンゴを体験し、効果的な指導方法について考察する。(目標(1)②③④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第5回：昆虫・小動物との出会い 子どもの生物概念の発達、動物飼育の実践と課題 [講義] 保育現場における動物飼育の実態と課題について理解する。子どもの発達段階に応じた生物に対する認識や、動物飼育が認識の変容に及ぼす影響について、最近の研究をレビューし議論する。子どもと動物との関わりについてのエピソードを分析し、適切な言葉かけや環境構成の方法をグループで考察する。保育現場で動物を飼育する上で知っておきたい基本的な知識(飼育動物の生態、動物倫理、アレルギー・寄生虫、外来種問題など)を理解する。 [実践] ダンゴムシを材料とした遊びを体験し、保育での適切な活用方法を議論する。(目標(1)②③④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第6回：子どもが自然環境と関わる意義 自然環境の中での遊びと安全対策 子どもが自然環境と関わる意義について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに考察する。自然環境の中で遊ぶ際の安全対策を学ぶ。「森のようちえん」の実践映像を参照し、自然の中に潜むリスク・ハザードの実態と、保育者の対応方法についてグループで議論する。子どもの自然遊びを指導する際に必要となる、安全上の知識を獲得する。危険な生物として、スズメバチ類、毒ヘビ類(マムシ・ヤマカガシ)、マダニ等を取り上げ、これらの基本的な生態と対処方法について理解する。(目標(1)②④、目標(2)①⑤)</p>

	<p>第7・8回：動物との出会い 動物園実習</p> <p>〔講義〕子どもの社会認識の発達について学ぶ。子どもと地域の社会施設との出会いや地域の人々との関わりに関するエピソードを分析し、それらの経験が子どもの発達に与える影響を考察する。社会施設の1つとして動物園を取り上げ、その特徴と歴史的背景、役割について学ぶ。動物園の動物を観察する上でポイントとなる、生物学的知識（生息環境に合わせた適応、性淘汰など）を学ぶ。動物園での園外保育について、グループごとに指導案を作成する。</p> <p>〔実践〕宮崎市フェニックス自然動物園において、動物観察を行う。動物観察をもとに、子どもに紹介したい内容をグループで検討しまとめる（絵本、ペープサート、紙芝居など、形式は問わないものとする）。（目標(1)②④、目標(2)①②③⑤）</p> <p>第9回：動物との出会い 動物園実習発表会</p> <p>動物園実習の成果をグループごとに発表する。（目標(1)②④、目標(2)①②③⑤）</p> <p>第10回：水との出会い シャボン玉づくり</p> <p>〔講義〕水を用いた保育の指導方法を学ぶ。虹ができる原理・虹を作る方法、色水遊びに用いることができる植物・色を変える方法、水辺に集まる昆虫や小動物の種類・生態など、水を用いた遊びと関連する基本的な知識を取得する。</p> <p>〔実践〕水を素材とした科学あそびとして、水中シャボン玉づくり・巨大なシャボン玉づくりを体験し、遊びを発展させる方法をグループで考える。（目標(1)②③④、目標(2)①③④⑤）</p> <p>第11回：子どもと自然とのかかわりを深める指導法、いきもの散歩マップづくり</p> <p>〔講義〕エピソードを分析し、子どもが自然との関わりを深める上で、保育者が果たす役割を考察する。また、自然との関わりを支援する上で身につけておきたい視点や技術を習得する。</p> <p>〔実践〕グループごとに自由にテーマを設定し、学内のいきもの散歩マップを作成する。いきもの散歩マップは、子どもを引率し散歩することを念頭に置いて作成し、子どもの発達や安全について意識するものとする。（目標(1)②③④、目標(2)①②③④⑤）</p> <p>第12・13回：いきもの散歩マップづくり（第11回のつづき）</p> <p>グループごとに学内を探検し、昆虫や小動物を採集したり、植物を探したりしながら、いきもの散歩マップを作成する。紙媒体・ICTの図鑑を用いていきものの種類を同定したり、生態を調べたりすることで、図鑑の使い方や図鑑を用いた効果的な指導方法についても理解を深める。（目標(1)②③④、目標(2)①②③④⑤）</p> <p>第14回：いきもの散歩マップ発表会</p> <p>第11回、第12回の調査結果をプレゼンテーションとして発表する。発表においては、タブレットやパソコンを活用し、情報機器の利用の方法についても理解する。（目標(1)②③④、目標(2)①②③④⑤）</p> <p>題15回：授業のまとめ</p> <p>期末試験：試験期間中に実施</p> <p>期末試験は教科書・プリント持ち込み「不可」とする。</p> <p>基本的な知識問題と論述問題を中心とする。</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>毎回のレポートの内容30%、プレゼンテーションへの取り組み20%、期末試験の成績50%で評価する。なお、提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートに質問コーナーを設ける。質問に対するコメントを入れて返却する。

<p>時間外の学習について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：予習動画（YouTubeにアップロードする）を視聴し、予習プリントに自分の考えを記入しておくこと。毎回、予習動画の内容に対する理解を確認するテストを実施する。プレゼンテーションに向けて、グループごとに授業外の時間で活動するなど、自発的に準備すること。</p> <p>事後学習：体験活動を子どもの育ちと関連付けるレポート課題を毎回課す。授業内容を振り返り、十分な考察を行うこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし。授業ごとに資料、ワークシートを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・田宮「体験する 調べる 考える 領域『環境』」萌文書林 ・高山「環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて」エイゼル研究所 ・加藤「子どもとつくる 3歳児保育」「同 4歳児保育」「同 5歳児保育」ひとなる書房 ・出原「自然・植物あそび一年中 ー毎日の保育で豊かな自然体験！」学研プラス ・山下・鑄物「保育園・幼稚園でのちいさな生き物飼育手帖」かもがわ出版 ・各種の昆虫・植物図鑑や絵本など（図書館、担当教員の研究室にて閲覧可能） ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 ・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館
<p>担当者からのメッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の領域「環境」の観点から環境を構成し、子どもの発達を適切に支援するためには、動植物や自然現象、社会、数や文字などに対する基本的な知識と、身近な環境を感じ取る豊かな感性、そして子どもに対する理解が必要です。この講義では、学生のみなさんが実際に遊びを体験する機会を用意します。積極的に参加し、楽しみながら知識を取得すると共に、自分の感性を育てていくように心がけてください。 ・遊びを体験する時間を十分確保するため、基本的な内容の講義は、予習動画にて配信します。毎回授業の冒頭で確認テストとグループワークを実施しますので、予習を徹底してください。 ・フィールドワークの際には、汚れても構わない服装・靴を身に付けてください。泥団子づくりを行う際は、爪を切り、マニキュアやネイルの使用を控えてください。一部の授業回は天候に左右されるため、授業の順番が前後することがあります。次の回の授業内容は、天気予報を踏まえて、前日にメールでお知らせいたします。 ・動物園実習は土曜日を実施します（具体的な実施日は第2回の授業で連絡します）。 ・保育士資格取得を希望される方・希望されない方で、別日程の開講となります。履修登録時に注意してください。
<p>オフィスアワー</p>	<p>金曜日以外は随時訪問を受け付けます。できるだけ事前にアポイントメントをとってください。</p>